

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 食による地域の活性化とにぎわいづくり

参加者

炭水化物なまち桐生実行委員会 12名

桐生市長

傍聴者 2名

報道機関 3名

日時：令和4年10月4日（火）午後3時から4時

場所：桐生市保健福祉会館 503会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

食による地域の活性化とにぎわいづくり

意見交換のポイント

- 炭水化物なまち実行委員会の活動を通じて感じていること
- 飲食店等の営業を通じて感じていること
- 地域の活性化とにぎわいづくりのために桐生市と共創したいこと 等

4 閉会

目的

桐生市の多彩な食を活用した話題性の創出により、交流人口及び関係人口の増加を図り、地域経済の発展に資する各事業に取り組むことを目的とする。

事業

- (1) 食をテーマにしたイベントの実施に関すること。
- (2) 各種事業の企画、調整、広報に関すること。
- (3) 飲食等関連団体による相互連携事業の促進に関すること。
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

会員数 56店舗 (R4.10.1時点)

入会対象：桐生市内の飲食店、又は当委員会と連携可能な個人団体



主な活動内容

- 1 R2.10.28 炭水化物なまち実行委員会設立説明会
- 2 R2.11.14 桐生もりもりフェス
- 3 R3.3.31 桐生もりもりマップ作成（印刷製本・配布）
- 4 R3.4~R4.5 山田製作所75周年記念商品券販売
- 5 R3.6.26 もりもりマルシェ開店（シルクル桐生隣）
- 6 R3.10.13 ナイトマルシェ
- 7 R3.10.13 青空マルシェ〜豚肉フェア〜
- 8 R3.11.19 ナイトマルシェ
- 9 R4.1.29 青空マルシェ〜牛肉フェア〜
- 10 R4.4.30 星空マルシェ
- 11 R4.5.3 桐生TON-豚フェス
- 12 R4.6.25 ナイトマルシェ
- 13 R4.8.6 桐生もりもり八木節まつり



今後の展望

●●フェアの定期開催

毎月第2土、日曜日に様々な企画を実施

ナイトマルシェの定期開催

毎月第4土曜日の夜に実施

今後の予定

青空マルシェの開催

令和4年11月6日（日）群馬銀行桐生支店駐車場にて実施

新里青空豚トンマルシェの開催

令和4年11月13日（日）新里町内にて実施



炭水化物なまち実行委員会の取組について



目的

炭水化物なまち実行委員会（以下「実行委員会」という。）は、桐生市の多彩な食を活用した話題性の創出により、交流人口及び関係人口の増加を図り、地域経済の発展に資する各事業に取り組むことを目的としている。
人口流出を食い止め、経済を発展させたい。みんなで桐生市を盛り上げたいと思いい、集まった会である。

会員

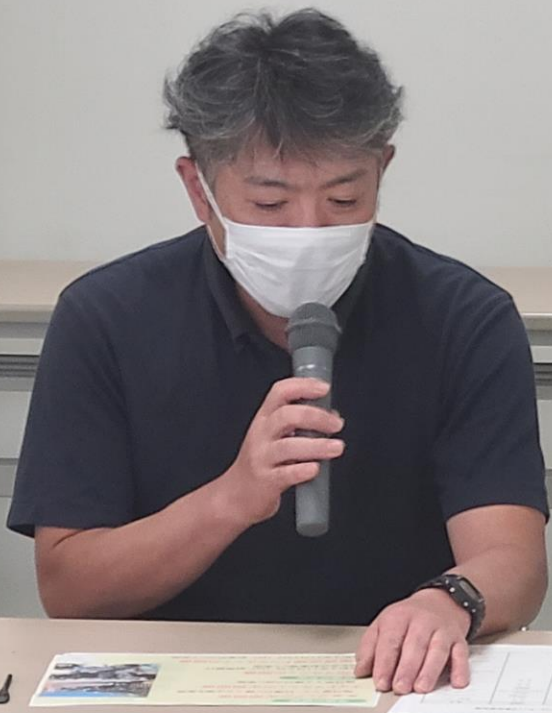
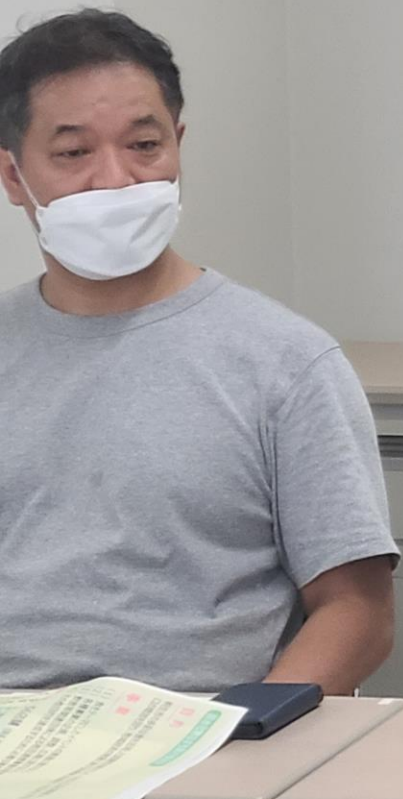
会員数は、56店舗（R4.10.1時点）で、飲食店ではない方やお店をやっていない方も、もりもりファンクラブとして会に入っている。

主な活動内容

令和2年10月28日に実行委員会を設立して以降、11月14日には初のイベントとなる「桐生もりもりフェス」を群馬銀行桐生支店の駐車場を借りて実施し、令和3年4月から有効期限を令和4年5月までとした「山田製作所創立75周年記念商品券」を販売した。
令和3年6月26日には「桐生もりもりマルシェ」（以下「もりもりマルシェ」という。）を開店した。出店店舗はお客さんが飽きないようにメニュー豊富にして頑張っている。
また、ナイトマルシェや青空マルシェなどのイベントを実施しており、8月6日には、「桐生もりもり八木節まつり」を開催した。飲食店の充実により多くの集客を図ることができていると感じている。

今後の展望・予定

もりもりマルシェで毎月第二の土日は、〇〇フェア、毎月第4土曜日にはナイトマルシェを実施しており、年内は他のイベント等もあるのでは開催しない予定であるが、今後も継続していきたいと考えている。
また、直近の予定としては、青空マルシェと（仮称）新里青空豚トンマルシェを開催することとしている。



(意見)

実行委員会に入ったことで、お客さんの幅が広がったと思う。
また、メンバーから仕入れ先のルートを紹介してもらうことができ、お店の営業に活かすことができていると思う。

(市長)

実行委員会とのつながりによる良い効果の一つであり、良い雰囲気での活動できていることの表れだと思うので、引き続き良い関係性で取り組んでほしい。

(意見)

群馬県外の宿泊客から聞かれる質問は、お土産の購入先やお昼の食事先、次の日の観光先である。

子連れであれば、桐生が岡公園や昆虫の森をすぐに案内できるが、年配の方から歩いて回りたいと言われるときには、様々な要望があるので簡単に答えることが難しい。モデルルートなど、説明できる媒体があると良いと思う。

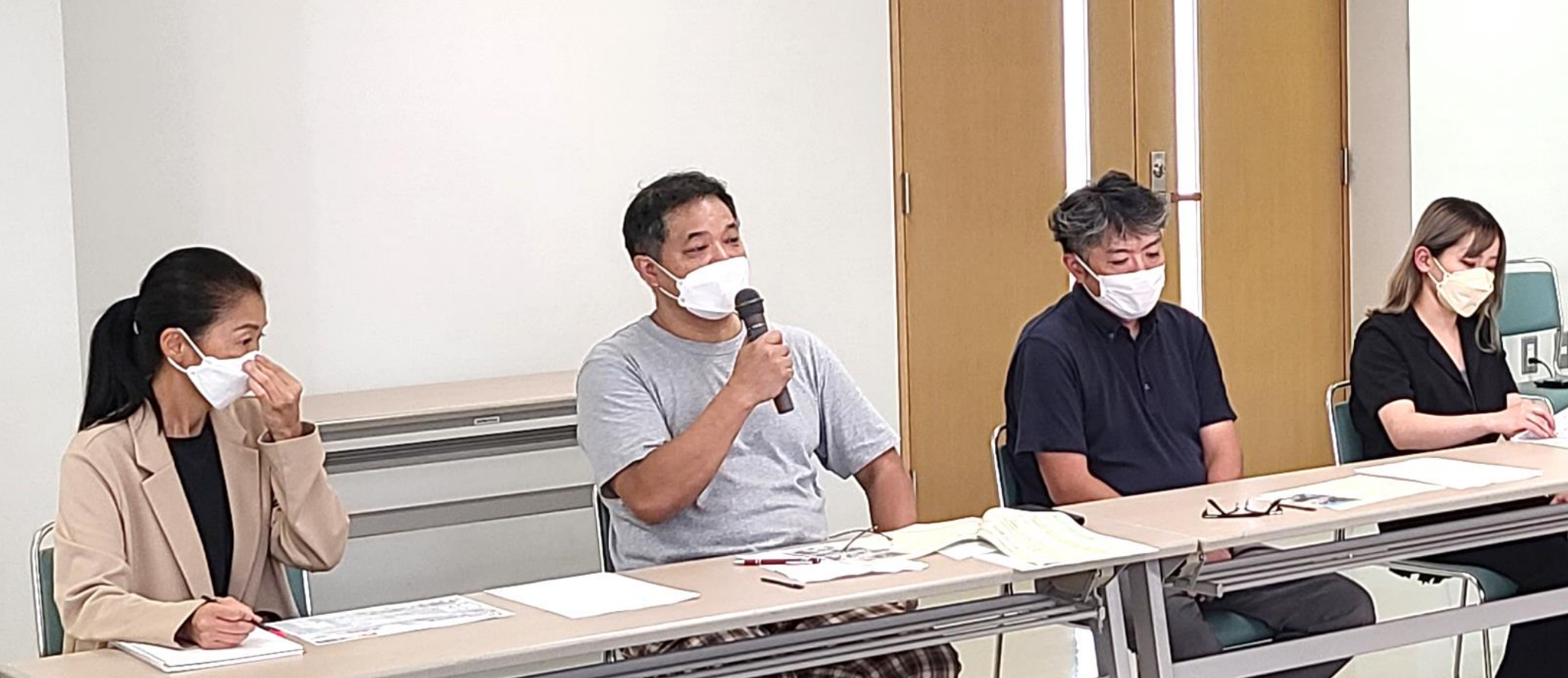
また、子供が自然を楽しめるものが紹介できると良い。例えば、青少年野外活動センターのイベントは桐生市民を対象にしているため、宣伝は広報きりゅうだけのようであるが、市外にも発信すれば人を呼び込めると考える。

グランピングやキャンプが流行っており、最近の若い観光客は体験型の遊びを求めていると思う。梅田地区であれば、茶摘み体験や桐生桜杓山城跡までのハイキングもできる。そういった需要と食を絡めると良いと思うので、市内だけでなく、市外に情報発信をすると良いと思う。

(市長)

情報発信が重要であると思う。メディアアミックス、クロスメディアといった手法の中でターゲットを絞りながら、取り組んでいく必要があると考えている。

都内のデベロッパの話では、梅田地区の車道と川の高さはほぼ同じであり、京都市の鞍馬と同様の環境とのことである。そうしたこともPRすると良いと言われているので、協力しながら取り組んでいきたい。



(意見)

実行委員会の企画、取組を通じて様々な方に知り合えたことは、自分いプラスになり、勉強になったと思う。同じ志を持った仲間と出会え、楽しく活動できている。

美味しいものを食べれば、みんな笑顔になるし、他の地域からも人が来てくれる。食と絡め、桐生市の魅力をPRする企画ができると思う。

はとバスのコースについて、食事後に桐生織物記念館を見学して、その後は足利フラワーパークや富岡製糸場など、市外に行ってみる。残念に感じている。桐生市内を周遊するコースにできないかと思う。

交通手段の情報発信について、東京方面から来てくれたお客さんに桐生市内の観光スポット等を紹介したところ、東武新桐生駅からの交通手段の情報を持っていない様子であった。おりひめバスやMAYUなどの周知について検討すると良いと思う。

(意見)

実行委員会に入ることにより、交友関係が広がったと思う。また、もりもりマルシェで商品を販売する機会が作れ、良かったと思っている。

情報発信について、お店には関東近郊からのお客さんが多く、数は少ないが海外の方もいる。また、コロナが少し落ち着いてからは車で来る方が多くなった。お客さんはみんな桐生市は素敵なまちだから、もっと魅力を発信した方が良いと言われる。発信力を高める手法を検討する必要があると思う。

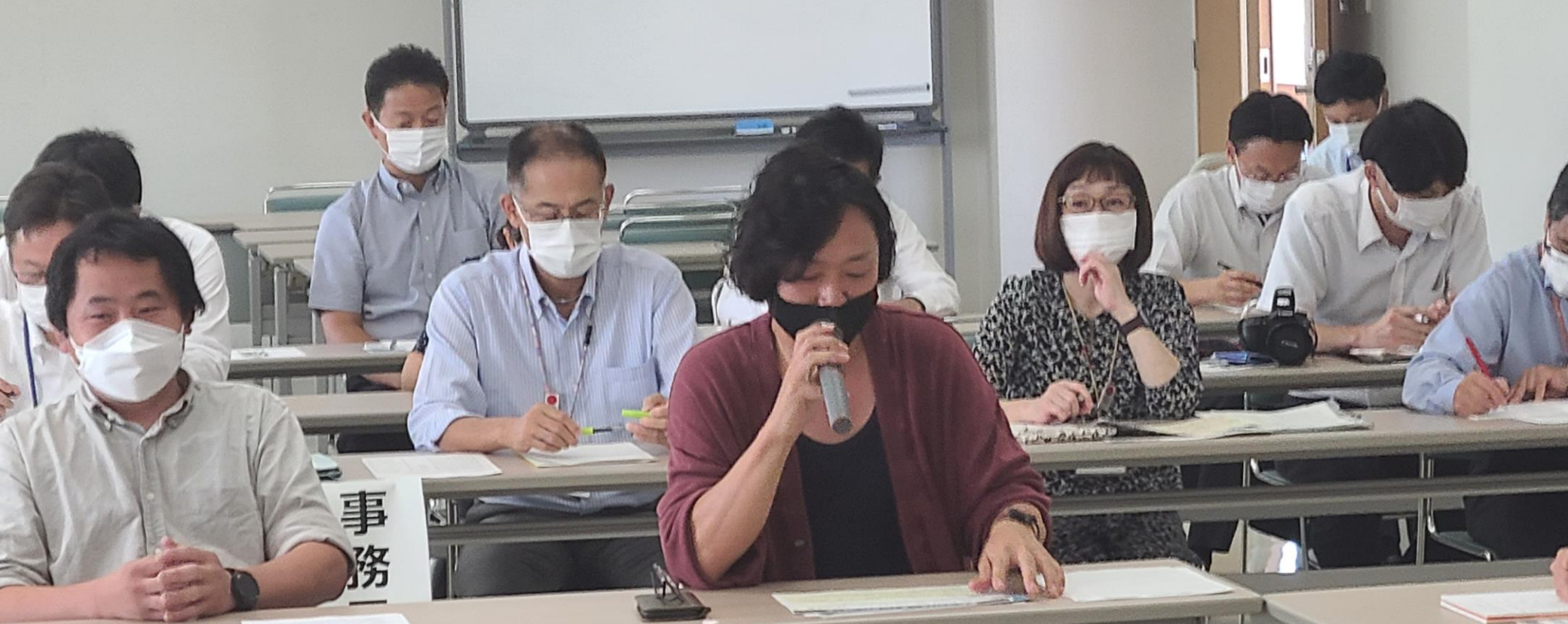
また、宿泊場所について、海外の方を視野に入れて検討すると良いのではないかと思う。

イベントについて、子どもから年配の方まで多くの方が訪れられる企画も必要であると思う。

(市長)

移動手段も含め、発信力の大切さについての意見であると思う。その辺り十分に検討していきたい。

宿泊については、これから観光で賑わいを創出するためには必要な取組であると思う。食事は市内飲食店で行い、民泊で泊まるようなこともできると良いと考えているので、検討していきたい。



(意見)

実行委員会にはチームワークがあり、会長をはじめ、先輩方が新しいチャレンジを応援してくれ、若い人に良いバトンを渡してくれるメンバーがそろっていると思う。実行委員会の取組を通じて開業した店舗では、桐生市の特色を生かした売り方をしたいと考えている。

桐生市にはおもてなし文化があり、誰かに勧めたいという考えを持っている方が多く、お土産で購入する方が多いので客単価が高い。また、SNS等で発信した情報を読み込んで来店する方が多い特徴があると感ずる。

店舗の新商品を従業員であるママさん方に考えてもらっており、そうした取組が東京のお店から参考にしたという話もある。地産地消の観点で桐生市産の商品を作り、桐生市を自然な形で全国にPRしたい。

今後も桐生ならではの特色を活かしながら、全国に広げるための土台を実行委員会のメンバーと共に作っていきたいと考えているので、桐生市とも連携し、更に輪を広げられるようお願いしたい。

(意見)

もりもりマルシエは、お客さんから行ったことがない店舗のお弁当が買えるので嬉しいと喜んでもらえている。

イベントにきたお客さんを店舗の営業に結び付けたい。イベントに参加することで、イベント内での認知度が上がったが、店舗の営業に来る客層と異なっているようなので、何か仕掛けを考えたい。

夜の移動手段について、お客さんからの意見にタクシーが24時までしか動いておらず、代行タクシーは台数が少なく時間がかかるため、待つのが嫌で町に出ないという声が多くある。

高崎市では日中、運賃無料で一定のルートを循環するミニバンが走っている。

例えば、本町通りを循環するバスを走らせるなど、夜の店から店を周遊できるように移動手段を検討してほしい。

おりひめバスの運行について運行本数を増やすことができるのであれば、郊外からまちなかに運びこめるようにしてほしい。

(市長)

共創の取組として様々な連携し、協力してまいりたい。

公共交通の大切さについては、重々承知しており、令和4年4月の機構改革により交通ビジョン推進室を設置した。タクシーなどがないことで、飲酒運転につながるのではないよう、将来の公共交通のあり方、総合的な移動手段を考えていく中で他市の事例も参考に検討したい。



（意見）
群馬県の行う地産地消の取組に「ぐんま地産地消推進店」があり、当店舗でも認定を受け、県内野菜の活用に取り組んでいるが、県の計画における桐生地域の地域推進品目は「ブロッコリー」とのことである。疑問もあるが、認知もあまりされていないのではないかとと思う。

桐生市の農産物を桐生市内の飲食店で使用してもらいたいと考えているので、新里地区と黒保根地区の農産物も含め、生産者と消費者がつながるネットワークや情報があると良い。
また、生産者と飲食店間でこういった野菜を作ってほしいといった話し合いができるようなネットワークがあると良いと考えている。実行委員会では、桐生市産や群馬県産の農作物を一品でも多く使用していくので、桐生市にはそうしたお店のPRを検討してほしい。

（市長）
群馬県では、「野菜王国・ぐんま」を推進しており、出荷量が全国上位の品目もあり、群馬県は首都圏への重要な供給産地となっている。

桐生市は地域の約70パーセントが山林なので、農業ができるエリアが限られている。そうした中、「桐生市酒米生産組合」では、遊休農地等で生産した酒米を使用した地酒をPRしていくという取組を行っている。そうした取組も含め、桐生市の地産地消を推進してまいりたい。

また、ネットワークについて、地域おこし協力隊が黒保根マルシェという取組で桐生地区で黒保根の野菜を販売していたが、退任と共に止めてしまったので、需要を繋ぐ仕組みも検討してまいりたい。

私も最近まで知らなかったが、新里地区では白なすを生産しているので、地域の特徴的な農産物として、桐生地区での活用について取組が進められないか検討したい。

（意見）

桐生もりもりフェス以降もテレビなどで報道された効果として、民間企業からソースカツ丼のソースを販売したいとの申し入れがあったことや、コンビ二エンスストアでのソースカツ丼の販売が挙げられる。

桐生ソースカツ丼会を設立したが、コロナ禍において中々PRを行う場がなかったが、全国的にソースカツ丼がある中で、桐生市が選ばれたのは、注目が集まっていることの表れであり、情報発信のチャンスを迎えていると考えられる。

自分が若い時にはこうした集まりで自分の考えを発言できなかったが、やはり若い人たちが発言できる環境があって、我々がそれを応援できる体制が良いと考えている。



(意見)

実行委員会では若い人が発言できる環境づくりをしてもらっているので、会長をはじめ、みなさんに感謝したい。

余ったお弁当について、NPO法人キッズバレイと連携してコロナモに在学生に食べてもらう企画を行ったところ大変喜ばれた。

埼玉県草加市では、一人親世帯向けの24時間空いているフードバンクがあり、地元企業の冷凍食品等が受け取れる仕組みがある。余ったお弁当や市場に出せずに廃棄する野菜等を渡す支援のできる場所があると良いと思う。

地場産品の販売について、観光客から地元野菜や総菜を買える場所について聞かれる。これから行楽シーズンを迎えるに当たり、繊維関連の地場産品に加え、そうした需要を取り込めると良いと思う。忘年会や新年会、歓送迎会のシーズンに向けた雰囲気づくりについて、一次会はあるが、二次会には行きにくい風潮があると感じている。

店舗ではコロナの感染対策を実施しているので、町に出やすくなるよう、周知を検討してほしい。

(意見)

もりもりマルシエの経営はお陰様で順調であるが、年末年始以外は休みなしで営業しており、毎日10時半までにお弁当の納品を行うため、休日返上で商品を出すこともあり、出店者は大変な思いをしている。

そのため、実行委員会の会員を増やしたいと考えている。

会員の増加により、現在の店舗では手狭になると思うが、日替わりで出店できるようにすることで、休養日が取れるようになると思うので、周知に協力してほしい。

イベントについて、様々な団体が一カ所に集まって実施することにより、より桐生市を盛り上げられるのではないかと考えている。各団体との橋渡しの役割について、協力してほしい。

(市長)

これからファッションウィークも始まるが、桐生市のイベントの特徴としては、それぞれの団体が自主的に同時多発的にそれぞれが好きなように実施してきたところがある。横の連携を取ることで、相乗効果が図られるとすれば、市の方で音頭を取ること検討したい。



(意見)

食による桐生市のまちづくりやまちのブランディングを考えると、他の地域にないソースカツ丼やひもかわが挙げられると思う。

しかしながら、実行委員会の取組を通じて感じたのは、ソースカツ丼やひもかわだけではなく、本当に豊かな食文化が桐生市にあるということである。

市長は桐生市の食文化を地域資源としてどのように考えているか伺いたい。

(市長)

食は地域の個性であり、ノコギリ屋根工場や豊かな自然環境と同じ位置付けの地域資源であると考えている。

眠っている潜在能力、地域資源の掘り起こしは重要であるので、それらをシティブランディングとしてどのような形で打ち出していくことが良いのかなど、みなさんの意見を伺いながら取組を進めたい。

(意見)

食は歴史、伝統、文化よりも人の生命の根源にコミットするものであり、非常に強い吸引力を持っている資源であると思う。

桐生市の食文化をどのようにブランディングしていくかについて、桐生市と共創していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(意見)

飲食には人集めの効果があり、魅力ある資源である。

もりもりマルシエができる前、シルクル桐生でお弁当を出した際には、事前告知をしていないのに行列ができた。もりもりフェスでは、コロナ禍であったにも関わらず、千人近くの人に来てくれた。そして、出店者が美味しいお弁当を作ってくれるお陰で、もりもりマルシエが一年以上続けられている。

これは桐生市の人達が食文化を大切にしていることの表れではないかなと思う。

夢を語らせてもらうと、桐生市に遊べる商業施設があると良い。そこに我々の飲食店が入れると良いと思っている。

例えば、先日の新聞報道であった桐生スケートセンターの跡利用について、スケート場を残しつつ、織物をはじめとする桐生ならではの商品などを販売する商業施設が入れると良いと思っている。

他市では、体育館の建替えの際に、民間企業から多額の寄附を集めたという話もあるので、そうした取組ができると良いなと夢を持っている。

我々は食をもっともっと盛り上げ、市外、県外から人を呼び込み、桐生市に住みたくなるように、まちづくりに貢献していきたいと考えているので、共に取り組んでもらえるよう、お願いしたい。

地域の活性化とにぎわいづくりのために桐生市と共創したいこと 等



(市長)
皆さんの現場の声を伺い、市として何ができるか、また、共に行うことでどのような相乗効果を生み出せるか、高みに向けて共に検討していきたいと思う。

ここで、皆さんに共創の取組として二点お願いしたい。

一つ目は、11月1日から電子地域通貨「桐ペイ」を開始する。当初は普及促進のためにプレミアムポイントを用意するが、将来的には各商店に利用特典のようなものを添えていただけるとありがたい。二点目は、9月10日を「球都桐生の日」に制定した。野球だけがスポーツではないといった意見もあるが、織物だけが仕事ではない、ひもかわだけが食べ物ではないといった議論ではなく、本市の地域資源の一つに野球があるというふうにつえ、この資源を活用して地域を活性化しようとするものである。「球都桐生」を盛り上げるため、例えばイベントへの出店やオリジナルメニューなどを作ってもらえるとありがたい。

イベントの客が来店に結び付いてないといった課題もあるとのことだが、イベントを通じて味を知ってもらい、来店に結び付ける仕組みは大事である。今後こんなイベントにしたらもっと面白いといった意見やこんなことをやりたいといった考えはあるか。

(意見)
先日、前橋市で実施された「前橋パルストリート2022」のイベントでは、通りを通行止めにして飲食店等を並べていた。そうした取組を実施したいと考えている。

(意見)
実行委員会がイベントをやるときは、会場を決め、出店者を募り実施するが、町全体をプラットフォームにして、イベント団体を募るようなやり方で大規模にできると良いなと思っている。
色んな活動をする団体が、個性とブランドをもって、それぞれ活動をしている。それらを集めたフェスにするので、桐生市の一大イベントになるのではないかなと思う。

(市長)
神業ミュージアムではまち全体をミュージアムに見立て、桐生の歴史や伝統技術が体感できるようにしていた。食で行うというのも面白いと思う。

(市長)

実行委員会の皆さんの活動は多くの市民の注目を集め、着実に実績を上げており、まちのにぎわいの創出に大いに貢献してもらっている。市として厚く感謝を申し上げたい。コロナにより、大変な時期があったと思うが、皆さんの創意工夫の中で、新しい取組を展開いただいていると思う。皆さんの話を伺って感じたのは、横のネットワークができていて、本当に良い関係性が構築されているということである。

皆さんと我々行政が共に取り組むことで、食を通じたまちのにぎわいの創出に拍車をかけていきたいと考えている。今後より良い効果につながるかと考えられるものがあれば、どんな意見を寄せてもらって、一緒に検討していければ良いと思う。

限られた時間のため、皆さんの思いの丈を全部話してもらうことはできなかったかもしれないが、本日の意見や考えを受け止め、今後の施策に反映したいと考えているので、引き続きよろしく願います。

